

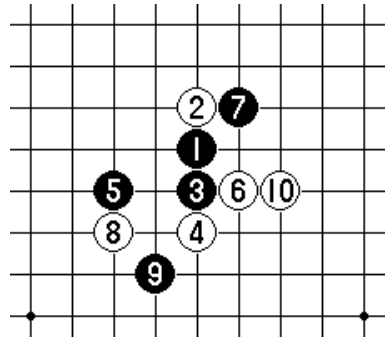
# 連珠っておもしろい

## 九段 河村典彦

### ●第59回●

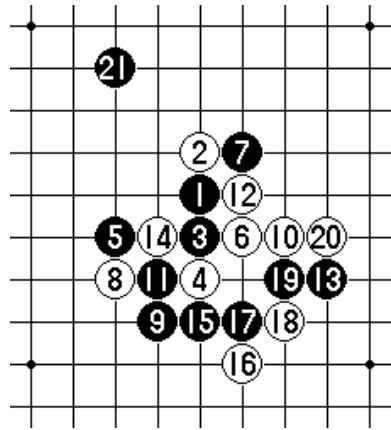
### ももいろクローバーZ

年末年始は久しぶりに家でのんびり充電できた。そのおかげでいろいろな日本のことが理解できた。良かったのは紅白歌合戦。他にもいろいろクローバーZには感動した。メンバーの中に丸田先生の教え子もいると聞いたので余計に親近感が湧く。早速ドイツに帰ってユーチューブを見たら、すっかりはまってしまった。最近ではAKB48の「走れ!ペンギン」と、ももクロの動画ばかり見て連珠の研究どころじゃない!(それはいかんだろ! まあいいか) そんな中でもやはり名人戦は最大の関心事だ。第5局が1月27日に行われた。連珠世界に先駆けて? 早速解説をしていこう。



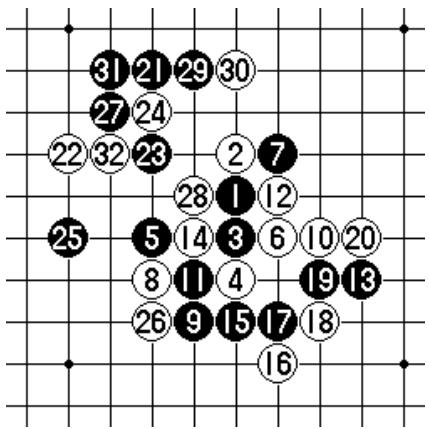
松月は意外な指定だったが、中村九段らしい勝負術だったのだろう。大角名人が黒を取るのには自然な流れで、黒5を狭い方に打つ。白6、黒7は最近ではこれが多いだろう。ここで何もせずに白8と止めるのはあまり見ないことだが、広く打つつもりなのだろう。対して黒9は普通は反対から叩きそうなものだ。なぜそうしなかったのかと考えたが、三々を狙われる手がある。それで負けという訳ではないが局面が固まるのを嫌ったのだろう。ここで白10が何だ?

いう手。しかし調べてみると、実は昨年のクラス別で福井暢宏五段が大角名人に對してこの手を打っている。大角名人は既にこの手を経験済みだったわけだ。一方の中村九段がこのことを知っていた上での作戦だったのかはわからないが、大角名人の方が手を変えた。



福井戦では黒11は6の下だったが、本譜の方が普通だろう。白12、14も当然で、黒に手を渡した。黒は15、17と引いた後黒19に割り込み、次に黒21!と広々とした一手を打った。面白いことに黒15から21

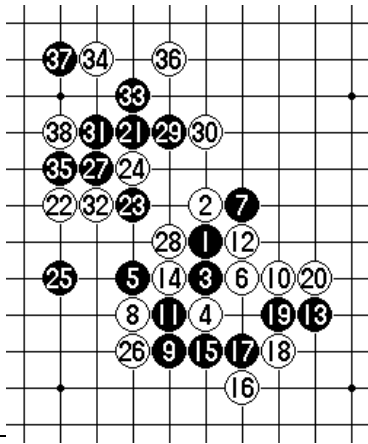
までの手順はブラックストーンでも最善の手順とされ、黒21の時点ではかなり黒有利と判断されていた。まさに大角名人はブラックストーンンの申し子と言ってもいいだろう。ただし、これで必ずしも黒が勝つとは限らないのが実戦である。



白22と透かし止め、黒23、白24の交換の後の黒25は果たしてどうだったか? 白26との交換は損だったよいうな気がする。ただし、白は黒25を悪手にするため、白30、32と防いでおり、

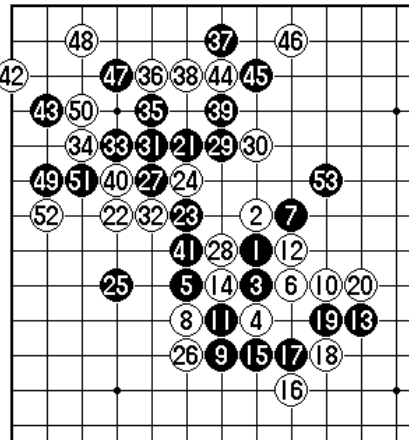
これで上辺に勝ちがあれば黒25が勝着ということになる。

実際に黒33から勝ちがありそうで、悩む。例えば左図のように黒33とトビ三を打てば上止めが絶対になる。続いて黒35は36に引きたいのだが、35が四ノビになるだけに打てなく、黒35と引くと白36がびつたりで以下勝てない。実戦的には黒35では右辺に先着して満局を目指す所なのかもしれない。



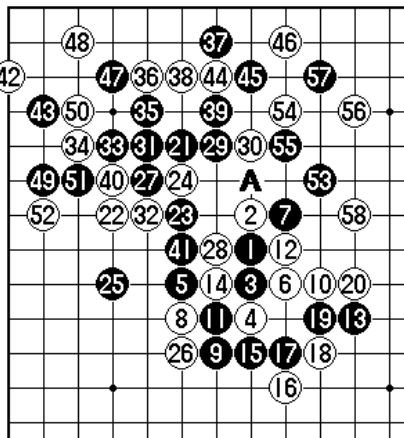
実戦は黒33、35と密集してここで勝負をかけた。おそらく大角名人も勝てると

は思っていなかったと思われるが、盤を埋めていくという意味で仕方なしに打ったのだろうと推測される。



白42の四ノビ一本が命綱で、これで四迫いを防いでいる。ただし、黒も53に先着してまだまだ満局に向かって粘るのではないかと希望的観測をしていたと思う。しかし、こういう所から勝ち切るのが世界の中村No.1である。(世界のもクロNo.1にひっかけてみた。いかん、脳が：笑)

いだろうか。ここは56に防ぐか、もしくはAに打った方が粘りがあった。



実戦では白56と三々を見せたのがうまく、白58で必勝になってしまった。ちようど私も黒57あたりの局面からリアルタイムで見出したが、よく見ると白がかなり良く見えた。ほどなく白が勝ち、中村氏が再び名人位に返り咲くこととなった。中村新名人には再び世界一を狙ってもらいたい。ちよつと行数が余ったので、冬のドイツの風景を掲載することでスペースを埋

<ドレスデン市街>



めさせてもらおう。先日旧東ドイツのドレスデンという街に行ったが、西ドイツとは違った趣で非常に良かった。ネットにもドイツを訪れるなら外せない街という評価がされていた。次号は祝300号&60回記念を！